

# 社会貢献活動

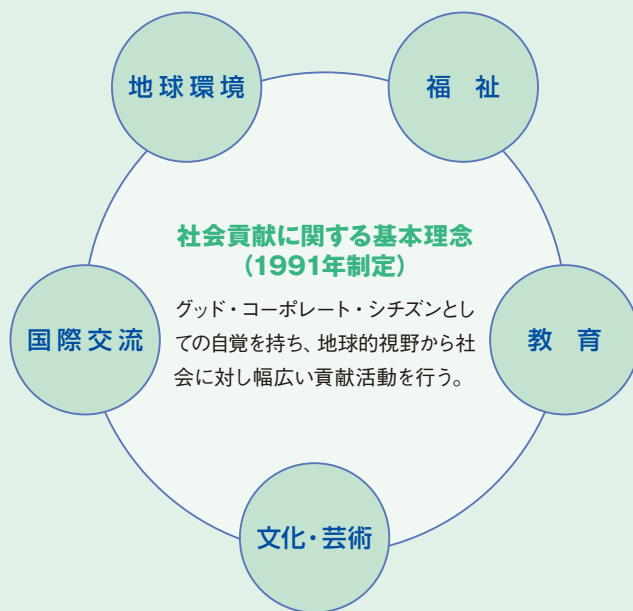
三菱商事の企業文化には、真に豊かな社会づくりに貢献するために地域社会や国際社会とともに発展していきたいという思いが根付いています。幅広い分野で継続的に活動するとともに、社員の参画を積極的に支援しています。

## 社会貢献活動の取り組み体制

1973年、三菱商事は社会の一員として積極的に社会貢献活動を行うことを目指し、社会環境室を設置しました。以来、各地の社会状況や文化的・歴史的背景を重視し、地域社会のニーズを活かした活動に取り組んでいます。

### 三菱商事の社会貢献活動

- 三菱商事および連結対象会社における取り組み
- 社員のボランティア活動参画への支援
- 財団・基金における取り組み
  - ・三菱商事米州財団 (1992年設立)
  - ・三菱商事欧州アフリカ基金 (1992年設立)



## 社員の積極的なボランティア活動への参画を支援

三菱商事では、2005年4月から、社員のボランティア活動を支援する制度・取り組みを始めています。

### ボランティア休暇制度

三菱商事の社会貢献活動の基本理念に則り、原則として社会・環境室が指定した活動に参加する場合、年間最長5日間の休暇が取得できます。

### 「MC Volunteer Activity!」

社員のボランティア活動を支援する施策として「MC Volunteer Activity!」を導入しています。これは、社員が1回ボランティア活動に参加するごとに、1トークンという仮想通貨を獲得できる仕組み。積み立てられた全社員分のトークンは年度末に1トークン=500円で換算し、その金額を会社が拠出して環境・福祉団体に寄付します。

実際にボランティア活動に参加するだけでなく、積み立てられたトークンが寄附として再度社会に役立てられることで、社員の参加意欲の促進にもつながっています。

### ボランティアデータベース

社内イントラネット上に、ボランティアデータベースを整備・充実させ、社員が自由にプログラムを選択できるようにしています。活動の参加記録もデータベースに登録され、トークンの集計にも使われています。

2006年度実績	
ボランティア休暇取得日数	53日、27名(延べ数)
トークン数	1,984



大分国際車いすマラソン大会での活動



美術館障がい者招待企画



障がいのある子どもたちに贈る布のおもちゃ製作

## 日本での取り組み

### 熱帯林再生実験プロジェクト

世界各地での熱帯林の減少は、生物多様性や、地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>の吸収、異常気象や自然災害に大きな影響を及ぼしています。三菱商事では1990年より「熱帯林再生実験プロジェクト」に取り組んでいます。

このプロジェクトでは、現地固有の樹種を密植・混植方式で植林することで、40～50年という短期間で自然林に近い生態系をよみがえらせることを目指しています。三菱商事は今後も研究機関やNGOとの連携のもと、熱帯林再生に寄与していきたいと考えます。



### 母と子の自然教室

三菱商事は1974年から、毎年夏に「母と子の自然教室」を開催しています。これは、東京都内在住のひとり親家庭の母子が人や自然とのふれあいを体験する3泊4日のキャンプです。

今年は、44組、約100名の母子が参加。社員ボランティア26名とともに、山歩きやきもだめし、キャンプファイアを楽しんだり、蛍に歓声をあげるなど、大自然を満喫しました。また、母親を対象とした専門家による個別相談も開催し、母子ともに有意義な4日間を過ごしました。



### 八王子森林保全活動

三菱商事は2005年度より「東京グリーンシップ・アクション」に参加しています。この活動は、東京都が指定した緑地保全地域の自然環境保護活動に対して、企業が資金を提供し、NPOと連携しながら社員が活動に参加するものです。

2006年度は、八王子市大谷地区で9月と1月に活動を行い、社員とその家族約90名が参加。地元NPO「八大緑友会」の指導のもと、下草刈りや間伐などの作業を行い、自然の中の活動で気持ちの良い汗を流しました。



### 三菱商事・東京YMCA 秋の山中湖キャンプ

2003年から毎年秋に、LD（学習障害）児を対象とした野外キャンプ活動を山中湖畔で開催。これは東京YMCAが企画・運営し、協働プログラムとして三菱商事が助成するもので、毎回社員もボランティアでキャンプリーターとして参加しています。

このキャンプを通じ、子どもたちがさまざまな活動にチャレンジし自分に自信をつけ、仲間と助け合うことによりコミュニケーション能力を高めることを目的としており、約40名の子どもたちが充実した3日間を過ごしています。



## 世界各地での取り組み

### 無電化村に太陽光発電の外灯を寄贈（インド）

三菱商事は、インド東部・オリッサ州のコラブット地域の無電化村に、太陽光で発電する外灯200基を寄贈しました。外灯は同国の財団「持続可能な農業・農村調査開発センター（スワミナタン財団）」を通じて設置されました。

インドでは全土に電気が行き渡っておらず、農村部を中心にかなりの人々が電気のない生活を送っています。環境にやさしい太陽光ランプの設置によって、地域経済の発展や治安の向上にも役立っています。



### 小中学校に教室を寄贈（フィリピン）

フィリピンでは、慢性的な教室不足に悩む小中学校が数多くあります。教育を重要課題とする同国政府からの呼びかけで、三菱商事は2006年から小中学校に教室を寄贈するプロジェクトに参加しています。三菱商事は3年間で20教室を寄贈する計画で、今後も継続して取り組みを進めていきます。2006年度はセブ島の2つの公立小学校に、計6教室が贈られました。

またマニラ支店では、この2校に黒板や地図、地球儀などの備品も寄贈しています。



### 東アジア地域の植物園の連携・協働を支援（中国）

三菱商事は2007年4月、植物園自然保護国際機構（BGCI）による第3回世界植物園大会の一環として開催された「東アジア植物園ネットワーク会議」（中国・武漢市）を後援しました。会議には中国、香港、台湾、韓国などから代表者23名が参加しました。

このネットワークは、東アジア地域の豊かな植物多様性を守るために、植物園同士の相互協力と連携を図るものです。地域共通の植物保全の課題や、気候変動・生物多様性などの危機に向けた対応などについて協議し、植物保全事業計画の立案、実践を目指します。



### 日本研究を担う大学院生を支援（中国）

三菱商事は2005年より継続して「北京日本学研究中心」の研究活動をサポートしています。これまで、同センターの大学院生10名の訪日調査・研究活動を中心に支援を行ってきました。日本を訪れた大学院生たちは、研究のかたわらボランティアとして老人ホームを訪れたり、休日を利用して日本国内を旅行するなど、自らの体験を通じて日本の社会・文化・言語・経済などへの理解を深めています。

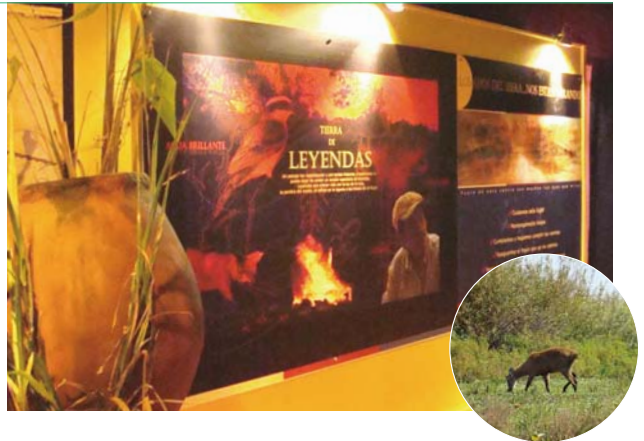
今年は、中国西部で大学での日本学講座開設や、歌舞伎などの日本文化に関する研究レポート作成などが進んでおり、支援の対象が広がっています。



## 自然保護区のエコツーリズムプロジェクトを助成(アルゼンチン)

三菱商事は2006年、アルゼンチン コリエンテス州の州立保護区・イペラ湿原でのエコツーリズムプロジェクトに対し、資金を助成しました。

130万ヘクタールもの湿地が広がるイペラ湿原は、貯水池であるとともに、1,400種類を超える植物、600種類以上の動物が生息する豊かな環境を誇ります。プロジェクトでは、州政府の協力のもと、助成先団体フナフの環境専門家による設計・開発により、湿原内3カ所にビジターセンターを設置。音と映像を用いて同地域の自然環境や文化、歴史を紹介します。



## 小学校の学習環境整備で地域の活性化に貢献(南アフリカ)

三菱商事と連結子会社のハーニック・フェロクロム社は、共同で現地のモレワネ小学校を支援しています。

パソコンや文房具、サッカーボールなど物品の支援のほか、校内に菜園を作って収穫した野菜の給食利用を目指す「野菜菜園計画」、設備充実・教師のレベル向上による「学校の構造改善計画」、HIV/AIDSに関する教育プログラム実施サポートなどの活動を続けています。こうした取り組みは、南アフリカ政府が掲げているRDP (Reconstruction & Development Program / 復興・開発プログラム) にも貢献しています。



## 米国三菱商事の社内CSR教育(アメリカ)

米国三菱商事では「CSR昼食会」を開催し、社員とステークホルダーがCSRに関する意見交換を積極的に進めています。

2006年11月はカリフォルニア大学サンタクルーズ校ポッツ博士による「ミッドウェーでのサンゴ礁保全」、2007年3月には、国連開発計画(UNDP)のベックマン氏による「持続可能なビジネス育成イニシアチブ」、また、同年6月には、レインフォレスト・アライアンスのウェーレン氏に「環境認証商品の市場価値」について、お話をいただきました。



## リンカーンセンターでの歌舞伎公演の支援(アメリカ)

米国三菱商事は、日米の文化交流を通じて両国の相互理解がますます進むことを期待し、2004年に続き、2007年7月にニューヨークのリンカーンセンターにおいて開催された歌舞伎「平成中村座」公演を後援しました。

この公演の様子はニューヨークタイムズ紙にも掲載されるなど好評を博しました。



Andrea Mohin/  
The New York Times

# 三菱商事米州財団の活動

## 三菱商事米州財団の概要

米国三菱商事財団 (Mitsubishi International Corporation Foundation : MICF) は、米国三菱商事が1992年に、三菱商事と共に設立した、ニューヨークを本拠地とする財団です。現在の基本財産は約6百万米ドルで、設立以降、累計で約4百万米ドルの環境保全活動に対する資金助成を行っています。

2007年11月26日、米国三菱商事財団は、三菱商事

米州財団 (Mitsubishi Corporation Foundation for the Americas : MCFA) に名称を変更しました。米州地域における三菱商事の事業活動は近年ますます事業投資先のウェイトが高くなっていることから、当財団の活動も、米国三菱商事だけでなく三菱商事グループの社会貢献活動であることを明確にするため、名称を変更したものです。

## 主な助成内容

### Sustainable South Bronx

Sustainable South Bronx (SSB) は、ニューヨーク・サウスブロンクス地区の環境再生や経済活性化を目指し、土地利用、エネルギー、交通、水や廃棄物に関する方針、教育問題の解決に取り組んでいます。MCFAは、SSBの活動のひとつ「Bronx Environmental Stewardship Training (B.E.S.T.) Program」の維持と拡大のために3年間で15万米ドルの支援を行っています。サウスブロンクス地区には環境汚染などで利用されなくなった数多くの工業用地があります。一方で高い失業率も問題です。B.E.S.T. Programは、地区の環境保全活動に従事する人材の育成を通して、環境保全と労働問題を解決するための取り組みを進めています。



SSBの環境保全活動の様子

### Environmental Breakfast

1993年からニューヨークで年に数回開催される朝食会は、NGOや寄附を行う企業などが情報交換を行い、さまざまな環境問題に関する意見交換や、NGOが活動資金調達の可能性を学ぶための場となっています。最近では、水問題、再生可能エネルギー、環境破壊が社会的弱者に与える影響、環境教育などの問題を取り上げています。



Environmental Breakfastの様子

### Forest Trends

Forest Trendsは、森林がもたらす経済的・生態系サービスや価値の増大に向けて活動するNGOです。三菱商事米州財団はForest Trendsが南米で行う森林保護活動に対して4年間で25万米ドルを提供しています。



南米で開催されたForest Trendsの会議

# 三菱商事欧州アフリカ基金の活動

## 三菱商事欧州アフリカ基金の概要

三菱商事欧州アフリカ基金（MCFEA）は、環境保護、環境に関する教育研究、貧困緩和を促進するため1992年に設立されました。設立以来、欧州やアフリカにおいて幅広い分野のパートナーと協働し、数多くのプロジェクトに130万英ポンドを超える資金助成を

行っています。また、同基金は1993年から、生物多様性の保護のため、最前線の科学の現場と一般市民をつなぐ活動に取り組む国際環境NGO アースウォッチに対し30万英ポンドを超える支援を行っています。

## 主な助成内容

### Earthwatch Fellowship Programme

1993年以来、Earthwatchが世界中で行う環境保護プロジェクトに70名以上の社員を派遣し、科学者や専門家が行う研究の支援を行っています。参加した社員は、観察データの収集に重要な役割を果たす一方、環境問題に対する知識と理解を深めています。

### Earthwatch Annual Balloon Debate

環境問題に関する情報の普及と行動を喚起させるため、科学者、NGO、一般市民が参加して毎年ロンドンで開催されています。年を追うごとに大好評で700名もの参加者があります。

### Corporate Environmental Responsibility Group (CERG)

CERGは会員企業のために、主要な環境問題に関する議論の場やグッドプラクティスから学ぶためのフォーラムを提供しています。MCFEAはCERGを支援するとともに、準会員としてもこのフォーラムに参加しています。

### African Fellowships Programme

1998年以来、アフリカの科学者などに現場での技術や、研究方法に関するトレーニングの機会を提供するAfrican Fellowships Programmeを支援しています。



アフリカでの活動の様子



Balloon Debateの様子  
©Crispin Zeeman



セーシェルのデロッシュ島で活動するアフリカの教師たち  
©Joanne Philips

## ステークホルダーの声



アースウォッチと三菱商事の協働は、1983年にMCFEAを通じた従業員参加プログラムを開始して以来、今年で14年目を迎えました。2005年には、三菱商事のサンゴ礁保全プロジェクトのセーシェルでの研究を支援することによりさらに

アースウォッチ・ヨーロッパ CEO  
ナイジェル ウィンザー氏

協力関係が深まりました。この研究はセーシェルの海洋資源の保護のためにサンゴ礁の環境に関する新たな知を生み出しています。また、三菱商事の社員や若い環境保護活動家、教員にもフィールドサイエンスに参加する機会を提供しています。